

サービスマーケティングを通して思った事

社会福祉学部社会福祉学科 2年 馬庭 卓司

活動先：NPO 法人 エンド・ゴール

クラス：村上 徹也 先生

1. 活動報告

私は、夏休みに NPO 法人エンド・ゴールへサービスマーケティング生として行き、そこで他の大学のインターン生と一緒に活動した。最初の時は、あまり自分から意見を言う事はなかったが、初めは、意見を黙殺して周りの人の意見に協調していましたが、活動していく内に自分から積極的に意見を発言することができるようになった。そこで気づいたことは、自分の意見をいうことにより、チームメンバーからも意見やアドバイスが出てくるので、より良い企画ができることや協力していくことの大切さなどが分かったのである。

私たちは、職業系と NPO 系の二チーム分かれてそれぞれにフリーステーションという地域で活躍している方をゲストとしてお招きして、少人数でお話しを聞く座談会を企画・運営した。その時に、様々な NPO 法人や社会福祉協議会の人や地域で活躍している人のお話をたくさん聞き、その中からフリーステーションのゲストをチームの人たちと決めた。

フリーステーションのチラシ作りのときに皆で意見を出し合っていていき、その時、様々な人の話を聞いているときに疑問に思ったことを考えて質問することにより、問いに対する答えを聞くことでその人のことをもっと深く理解をすることができるようになって気づいた。様々な人の意見や話を聞くことによって、自分が考えていたこととまったく違う視点からの見方や考え方が聞け、新しい視野が広がりより良い物が出来上がっていくのである。

この活動期間中は、最初に各チームに分かれて今日一日の時間配分や段取りを決め、それに沿って時間を見て、皆で積極的に動き、きちんと決めた計画に基づき活動していた。初めに計画を立てることで、自分たちに規律を付けることにより、だらだらすることはなく、きちんと時間を守り、きびきびと行動することができるのだと学んだ。時間を上手く使うことができる様になり、計画を立てることが、自分を成長させるのである。

チラシ作りのときには、先輩からアドバイスをしてもらい、また、もう一つのフリーステーションの人たちや他のチームの人たちにもこれでいいかどうかを見てもらい、改善点があれば指摘してもらった。それを踏まえてチームの人たちとどう改善していくかなどについて意見を出し合い、話し合いの末にチームメンバー全員が納得する人目を引くデザインやキャッチコピーを作り、完成することができた。そのときに、自分たちだけで決めるのは、その人たちの中でだけで納得しただけであり偏ったものなのだと気づいた。周りの人たちにデザインやキャッチコピーについて、どう思うかを聞き、意見を求めることにより、他の様々な視点や考え方が出てくる。それにより、一番良いチラシなどが完成することが分かったので、皆の意見を聞くことがいいものを作ることになるのである。

活動期間中は、今日一日の目標を発表して、それに基づいて自分から積極的に行動することや様々な人たちの話を聞いた時には、必ず質問をすることなどの主体性を強く求められた。そのことにより、活動を通して自分からどんどん手を挙げ、疑問に思ったことを積極的に質問していくこと、常に受け身の姿勢ではなく周りを見て自分から行動すること、アポイントメントを取るときの電話のマナー、ひとつの企画に向かってチームメイトとの協力が重要であることなどの様々なことを学び成長できたと感じた。

2. 地域との関わり

私は、知多半田地域の半田山車祭りで NPO 法人エンド・ゴールの販売の手伝いをした。この山車祭りで地域に触れて、地域と NPO が繋がっていくことが大切であると感じた。地域の市民の方々と NPO が協力して祭りを盛り上げていくことで、地域の人や他県の人などに NPO のことを少しでも知ってもらうことができていた。

エンド・ゴールは、知多地域若者サポートステーションを運営して、若者の就労支援をしており、関わりのある企業や自分たちが運営している H and A カフェやアンテナショップなどで職場体験を行うことにより地域との関わりをもっている。社会との繋がりがある所と協力することで、その NPO 法人にしかない特色を出すことのできるのである。

知多地域の PR をするために声優を目指している人たちを募集して、知多娘を結成して、実際に全国的に活動を展開していて、県外の人にも知られている。それが、様々な企業との関わりや他の NPO 法人との架け橋になっており、社会や地域との繋がりがどんどん増えていくのだと思った。

もっと多くの人たちに NPO 法人がどういった活動をしているかを正しく理解して知ってもらうためには、地域のお祭りや行事などに積極的に参加して交流を深めていくことは大切だ。地域や他県の人々に理解してもらうことにより、資金援助を進んで行ってくれる人たちが少しでも増えると思っているが、実際にはそう上手くいくことはないとも考えている。理由としては、多くの人たちが NPO を無償のボランティアと同じであると間違った解釈をしているからである。そのために NPO の PR 動画を制作してはどうかと考える。

3. サービスラーニングの全体を振り返って

私は、最初の内は、どういった活動をするようになるのかよく分からなかったが、ゼミをしていく内に少しずつ理解することができるようになってきた。このサービスラーニングでは、地域のことを深く理解するために特定非営利活動法人に夏休みを利用して、活動させていただき、そこでは、普通の学生生活を送っているとは、体験できないような経験をすることができた。地域のことをより深く理解でき、これからの生活で活かしていける多くの貴重な体験をさせてもらい、これからの人生の糧にすることができたのである。